

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	交通安全施設等整備事業（自転車歩行者道設置工事）				
地区名	一般県道 名古屋豊山稲沢線				
事業箇所	北名古屋市 六ツ師地内				
事業のあらまし	<p>当該路線は、名古屋市を起点に、豊山町、北名古屋市を經由し、終点の稲沢市に至る都市間幹線道路です。路線周辺には県営名古屋空港が位置するとともに、北名古屋市では街の中心部を当該路線が東西に貫き、また一般国道22号へと接続することから、通過交通が多く存在しています。</p> <p>また当該区間には名古屋芸大東キャンパスが位置するとともに、名鉄犬山線の徳重・名古屋芸大駅へのアクセス道路の一部を担っているため、駅を經由して大学に通う学生や、通勤や通学のため駅へ向かう自転車や歩行者などが多い路線となっています。</p> <p>さらに当該区間は、あんしん歩行エリアの外郭を示す路線となっているにも係らず、歩道が未整備となっており、歩行者等の安全な通行に支障を来す状況にあります。</p> <p>このため、歩行者及び自転車の安全性確保を主な目的として、自転車歩行者道整備を進めています。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行者及び自転車の安全性の確保 <p>【副次目標】（必要に応じて記載する）</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時	再評価時	変動要因の分析	
	事業期間	平成17年度 ～平成23年度	平成17年度 ～平成28年度	用地取得難航による事業期間の延伸	
	事業費（億円）	8.5	7.0	—	
	経費内訳	工事費	1.1	1.0	変動なし
		用補費	7.2	5.7	変動なし
		その他	0.2	0.3	変動なし
事業内容	歩道新設（L=0.29km）	歩道新設（L=0.29km）	変動なし		
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事前評価時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該路線は徳重・名古屋芸大駅のアクセス道路として、朝夕の歩行者及び自転車の通行が多く見られるとともに、区間内には名古屋芸術大学東キャンパスが立地し、通学する学生の多くは、駅からの道のりを路肩を歩いて通行せざるを得ない状況にあります。また、当該区間北側には幼稚園及び中学校が立地しており、本路線を横断するため交差点部に滞留する学生等と駅へ向かう自転車等との錯綜の危険があります。こうしたことから、自転車歩行者道を整備することにより、歩行者等の安全を図る必要が認められます。 <p>【再評価時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車交通量は8,255台/12h（H25実測）となっています。 整備が完了した区間については、歩道と車道の通行空間が分離されるとともに、歩行者及び自転車の通行に際し十分な幅員が確保され、安全性確保に寄与していますが、未整備区間については依然として危険な状況にあります。 <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再評価時においても、事前評価時同様に歩行者・自転車の安全な通行の確保の必要性が確認されることから、事前評価時に比べ事業の必要性に大きな変化は見られません。 			

②事業の進捗状況及び見込み	判定	B	<p>A：事業着手時に比べ必要性が増大している。</p> <p>B：事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。</p> <p>C：事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p>																																																																																																																																					
	<p>【理由】</p> <p>・歩行者・自転車の安全な通行の確保の必要性に大きな変化が無い。</p>																																																																																																																																							
	1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H17</th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">工種 区分</td> <td>調査・設計</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td style="text-align: center;">▶</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td style="text-align: center;">▶</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td style="text-align: center;">▶</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td style="text-align: center;">▶</td><td></td><td></td><td style="text-align: center;">▶</td><td></td><td style="text-align: center;">▶</td><td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">事業費 (億円)</td> <td>計画</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">3.27</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">5.23</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">1.03</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">1.33</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">4.64</td> <td colspan="4"></td> <td colspan="4"></td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗状況</th> </tr> <tr> <th>計画【①】</th> <th>実績【②】</th> <th>達成率【②÷①】</th> <th>計画【③】</th> <th>進捗率【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td style="text-align: center;">0.30</td> <td style="text-align: center;">0.24</td> <td style="text-align: center;">79.7%</td> <td style="text-align: center;">0.30</td> <td style="text-align: center;">79.7%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td style="text-align: center;">8.50</td> <td style="text-align: center;">5.97</td> <td style="text-align: center;">70.2%</td> <td style="text-align: center;">7.00</td> <td style="text-align: center;">85.3%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td style="text-align: center;">1.05</td> <td style="text-align: center;">0.61</td> <td style="text-align: center;">58.1%</td> <td style="text-align: center;">1.05</td> <td style="text-align: center;">58.1%</td> </tr> <tr> <td> 用地費</td> <td style="text-align: center;">7.21</td> <td style="text-align: center;">5.15</td> <td style="text-align: center;">71.4%</td> <td style="text-align: center;">5.71</td> <td style="text-align: center;">90.2%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td style="text-align: center;">0.24</td> <td style="text-align: center;">0.21</td> <td style="text-align: center;">87.5%</td> <td style="text-align: center;">0.24</td> <td style="text-align: center;">87.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【施工済みの内容】</p> <p>・約1物件の用地交渉に難航しており、平成26年度中の用地交渉成立の後、平成28年度までの完成を予定しております。</p> <p>【事後評価に準ずるフォローアップ】</p> <p>・施工済み区間においては自転車及び歩行者と車両通行の分離が図られています。</p>				H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	工種 区分	調査・設計								▶							用地補償										▶					工事	▶							▶			▶		▶		事業費 (億円)	計画	3.27			5.23			1.03							実績	1.33			4.64												これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況		計画【①】	実績【②】	達成率【②÷①】	計画【③】	進捗率【②÷③】	延長(km)	0.30	0.24	79.7%	0.30	79.7%	事業費(億円)	8.50	5.97	70.2%	7.00	85.3%	工事費	1.05	0.61	58.1%	1.05	58.1%	用地費	7.21	5.15	71.4%	5.71	90.2%	その他	0.24	0.21	87.5%	0.24	87.5%
			H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																								
工種 区分	調査・設計								▶																																																																																																																															
	用地補償										▶																																																																																																																													
	工事	▶							▶			▶		▶																																																																																																																										
事業費 (億円)	計画	3.27			5.23			1.03																																																																																																																																
	実績	1.33			4.64																																																																																																																																			
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況																																																																																																																																				
	計画【①】	実績【②】	達成率【②÷①】	計画【③】	進捗率【②÷③】																																																																																																																																			
延長(km)	0.30	0.24	79.7%	0.30	79.7%																																																																																																																																			
事業費(億円)	8.50	5.97	70.2%	7.00	85.3%																																																																																																																																			
工事費	1.05	0.61	58.1%	1.05	58.1%																																																																																																																																			
用地費	7.21	5.15	71.4%	5.71	90.2%																																																																																																																																			
その他	0.24	0.21	87.5%	0.24	87.5%																																																																																																																																			
2) 未着手又は長期化の理由	<p>・補償内容や代替地の選定などの用地交渉に時間を要したため。</p>																																																																																																																																							
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】</p> <p>・用地取得の難航。</p> <p>【今後の見込み】</p> <p>・用地買収は事業費ベースで約90%と進捗しております。残りの用地買収を完了するために引き続き用地交渉を進め、平成26年度に用地買収の完了、平成28年度の事業完了を目指します。</p>																																																																																																																																							
判定	B	<p>A：事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：多少の阻害要因があるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</p> <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																																																																																																																						
<p>【理由】</p> <p>・用地交渉等に時間を要することが予想されますが、引き続き用地交渉を進めることにより平成28年度の事業完了が見込まれるため。</p>																																																																																																																																								

③事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <p>—</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <p>本事業は、局所的な交通安全施設等整備事業であり、交通量推計条件に変化の考慮が困難な事業のため、算定不可とします。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】</p> <p>—</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>—</p>
-----------	-----------------------------	--

2) 貨幣価値化困難な効果の変化

- ・貨幣価値化困難な効果としては、「事故多発箇所での事故数削減」、「交通弱者に対する安全性向上」、「自動車交通の多い区間における歩行者の安全性向上」があります。
- ・また、「貨幣価値化困難な効果 評価基準表」に基づき評価した評価値は事前評価時が 0.56、再評価時が 0.67 となっています。

【事前評価時の状況】

達成目標 (建設部方針)	評価 対象 の判断	貨幣価値化可能な効果 評価基準表		
		評価項目	基礎点	得点
①交通安全 対策の推進	1 安心・安全	<input type="checkbox"/> a) 事故多発箇所での事故数削減に寄与する	MAX3	1
		<input type="checkbox"/> 事故危険箇所、緊急事故多発交差点、レッドゾーン区間(死傷事故率が500件/億台キロ以上の区間)、あんしん歩行エリアなど、交通事故の危険性が非常に高い箇所を含む区間における交通安全対策事業に該当する	3	
		<input type="checkbox"/> 死傷事故率が200~500件/億台キロの区間(イエローゾーン区間)など、交通事故の危険性が高い区間における交通安全対策事業に該当する	2	
		<input checked="" type="checkbox"/> 死傷事故率が200億台キロ未満の区間における交通安全性の向上に資する事業に該当する	1	
		<input type="checkbox"/> b) 交通弱者に対する安全性向上が期待できる	MAX3	
		<input type="checkbox"/> 通学路の安全性向上に資する事業又は交通バリアフリー法における特定道路または重点整備地区における事業に該当する	3	
		<input checked="" type="checkbox"/> 沿線又は周辺に学校、病院、福祉施設、その他公共・公益施設等が位置する区間における交通安全対策事業に該当する	2	
		<input type="checkbox"/> その他交通弱者に対する交通安全性向上が期待できる事業に該当する	1	
		<input type="checkbox"/> c) 自動車交通量の多い区間における歩行者の安全性の向上が期待される	MAX3	2
		<input type="checkbox"/> 計画交通量20,000台/日以上3種道路、または計画交通量10,000台/日の4種道路の歩道等の新設・拡幅に該当する。	3	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画交通量4,000~20,000台/日の3種道路、または計画交通量4,000~10,000台/日の4種道路の歩道等の新設・拡幅に該当する。	2			
<input type="checkbox"/> 計画交通量4,000台/日未満で歩行者利用のある道路における歩道の新設・拡幅に該当する。	1			
合計			9	5
総合計			9	5
評価値			0.56	

【再評価時の状況】

達成目標 (建設部方針)	評価 対象 の判断	貨幣価値化可能な効果 評価基準表		
		評価項目	基礎点	得点
①交通安全 対策の推進	1 安心・安全	<input type="checkbox"/> a) 事故多発箇所での事故数削減に寄与する	MAX3	3
		<input checked="" type="checkbox"/> 事故危険箇所、緊急事故多発交差点、レッドゾーン区間(死傷事故率が500件/億台キロ以上の区間)、あんしん歩行エリアなど、交通事故の危険性が非常に高い箇所を含む区間における交通安全対策事業に該当する	3	
		<input type="checkbox"/> 死傷事故率が200~500件/億台キロの区間(イエローゾーン区間)など、交通事故の危険性が高い区間における交通安全対策事業に該当する	2	
		<input type="checkbox"/> 死傷事故率が200億台キロ未満の区間における交通安全性の向上に資する事業に該当する	1	
		<input type="checkbox"/> b) 交通弱者に対する安全性向上が期待できる	MAX3	2
		<input type="checkbox"/> 通学路の安全性向上に資する事業又は交通バリアフリー法における特定道路または重点整備地区における事業に該当する	3	
		<input checked="" type="checkbox"/> 沿線又は周辺に学校、病院、福祉施設、その他公共・公益施設等が位置する区間における交通安全対策事業に該当する	2	
		<input type="checkbox"/> その他交通弱者に対する交通安全性向上が期待できる事業に該当する	1	
		<input type="checkbox"/> c) 自動車交通量の多い区間における歩行者の安全性の向上が期待される	MAX3	2
		<input type="checkbox"/> 計画交通量20,000台/日以上3種道路、または計画交通量10,000台/日の4種道路の歩道等の新設・拡幅に該当する。	3	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画交通量4,000~20,000台/日の3種道路、または計画交通量4,000~10,000台/日の4種道路の歩道等の新設・拡幅に該当する。	2			
<input type="checkbox"/> 計画交通量4,000台/日未満で歩行者利用のある道路における歩道の新設・拡幅に該当する。	1			
合計			9	7
総合計			9	7
評価値			0.78	

※道路・街路事業の評価マニュアル(平成25年3月 愛知県建設部都市整備課・道路維持課・道路建設課)による。

【変動要因の分析】

「事故多発箇所での事故数削減」

- ・事前評価時：平均事故件数 1.0 件、死傷事故率 61.03 件/億台キロで、得点は「1」
- ・再評価時：あんしん歩行エリアに指定(平成15年7月)されたため、得点は「3」
- ※再評価時の平均事故件数は 1.25 件、死傷事故率は 120.50 件/億台キロ

「交通弱者に対する安全性向上」

- ・事前評価時：沿線又は周辺に学校(大学：1校、中学：1校)が位置しており、得点は「2」
- ・再評価時：沿線又は周辺に学校(大学：1校、中学：1校)が位置しており、得点は「2」

「自動車交通量の多い区間における歩行者の安全性の向上」

- ・事前評価時：本事業区間は4種道路で自動車交通量は7,000台/日以上と予測、得点は「2」
- ・再評価時：本事業区間は4種道路で自動車交通量は10,000台/日程度(H25実測値8,255台/12h×昼夜率約1.3)であり、得点は「2」

判定	A	<p>A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。</p> <p>B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。</p> <p>C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p>
	【理由】	<p>貨幣価値化困難な効果について、再評価時の評価値が基準の 0.6 を超えており、事業着手時とほぼ同様の効果が見込まれるため。</p>
III 対応方針（案）		
事業継続	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。</p> <p>継続：上記以外のもの。</p>	
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容		
<p><input type="checkbox"/>対象（事業完了後 年目） <input checked="" type="checkbox"/>対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>・徳重・名古屋芸大駅から当該区間まで連続した自転車歩行者道の整備が終了した段階で検証する必要があるため。</p> <p>【主な評価内容】</p> <p>—</p>		
V 事業評価監視委員会の意見		
一般県道名古屋豊山稲沢線の対応方針(案) [事業継続] を了承する。		
VI 対応方針		
事業継続		